＜認知症対応型共同生活介護用＞

評 価 結 果 報 告 書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2571200225
法人名	医療法人社団　真下胃腸科医院
事業所名	グループホーム 大宝の郷
訪問調査日	平成　21　年　9　月　25　日
評価確定日	平成　21　年　10　月　14　日
評価機関名	ナルク滋賀福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

［取り組みの事実］

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

［取り組みを期待したい項目］

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

［取り組みを期待したい内容］

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 10月 14日

【評価実施概要】

事業所番号	2571200225
法人名	医療法人社団　真下胃腸科医院
事業所名	グループホーム 大宝の郷
所在地	〒520-3031　滋賀県栗東市綣8丁目17番54号 （電　話）077-554-7557

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地　平和堂和邇店　2F		
訪問調査日	平成 21年 9月 25日	評価確定日	平成 21年 10月 14日

【情報提供票より】（平成 21年 8月 31日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　17 年　7 月　17 日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	17 人	常勤　14 人，非常勤　3 人，常勤換算　15 人

（2）建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート　造り
	2 階建ての　1 階 ～　2 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	60,000　円		その他の経費（月額）	12,000　円
敷　金	有（　円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（150,000　円） 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	300　円	昼食	600　円
	夕食	600　円	おやつ	100　円
	または1日当たり	―　円		

（4）利用者の概要（ 8 月 31 日現在）

利用者人数		18 名	男性　5 名	女性　13 名	
要介護1		5　名	要介護2	9　名	
要介護3		4　名	要介護4	0　名	
要介護5		0　名	要支援2	0　名	
年齢	平均	87.3 歳	最低　66 歳	最高　100 歳	

（5）協力医療機関

協力医療機関名	社会福祉法人 恩賜財団 済生会滋賀県病院、　大槻歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所はJR栗東駅から徒歩6分の所にあり交通の便がよく、すぐ近くを旧中山道が通り由緒ある神社やお寺があって緑も多く散歩に適した場所にある。鉄筋2階建ての建物に18名が暮らしている。近くには経営母体である医院があり健康管理や緊急時の対応がよく、利用者に安心感を与えている。地域から熱望されて開設した経緯があり、また栗東市唯一の事業所であることから、地域との協力関係が強く地域からの期待も大きい。毎日の生活の基本は食事にあり、献立、買い物、調理、味付け、食事まで職員と利用者が一体となって楽しんでいる。今年で4回目になる「納涼祭」は地域住民のテント張りや屋台等の協力を得て盛大に行われ、今では地域の恒例行事となり、文字通り地域密着型ホームが実現しつつある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 前回評価ではターミナルケアの実践に向けての提案であったが今回は職員に方針が徹底され、専門医からの実践教育を受け全員のレベルアップが図られている。又避難訓練の地域との関係作りに関しては消防署指導の下、年2回実施し、地域の避難訓練にも職員が参加し地域との防災に対する連携がより深まった。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 全職員に自己評価票を記入させ今までのサービス内容を吟味させている。そこに全職員の総意があり、それを管理者が総括し、職員会議で検討して取り組み課題と具体的な行動計画を作成しサービスの向上に取り組んでいる。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。会議のメンバーは地域・行政代表3名、家族代表3名、ホーム3名、老人クラブ会長、民生委員、自治会長ほか計13名である。議題は、現状報告や行政との連絡事項報告、インフルエンザ等の特別対応策、「納涼祭」等の大きな行事の支援要請などである。会議を活かした取り組みとしては自治会との連携、行事の支援、農協の支援、各種ボランティアの受け入れである。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 家族が必ず参加するクリスマス会、年1度の家族会に家族アンケートを実施し意見・要望を汲み取りミーティングに取り入れ活動に反映している。月1度程度の来訪時に日常生活や健康状況を報告し問題点を話し合っている。その時 金銭管理内容も確認してもらっている。月刊「大宝の郷」に写真を載せ行事の参加内容を家族に配布・報告し家族の不安を取り除く努力をしている。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 地域の災害避難訓練への参加、ゴミ拾い活動等に職員と一部利用者が参加し交流して連携を深めている。所内に「喫茶ルーム」を設け気楽に地域の人が立ち寄れる場を提供している。近くの農協では毎週　朝市が開かれ、農協職員やお客さんが一緒に「喫茶ルーム」に来て交流の場が益々大きく深まっている。

2. 評価結果（詳細）

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の人々とのふれあいを大切に地域に開かれた福祉の場をめざす」ことを当事業所の理念としてかかげており、高齢者の方々が身近な地域の中で安心して暮らせる地域密着の理念を明確に創りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関と食堂に掲示しており家族や来訪者にも理解してもらっている。所員の名札にはこの理念を書き入れてあり、毎朝仕事の開始時にこれを読み合わせし理念の共有を図るとともにこの実践に日々取り組んでいる。		昨年グループ全体のパンフレットが発行され対外に理念が知られるようになったが、情報提供票・運営規定・重要事項説明書等の文書にも理念を明確に表示し、より一層関係者の理解を得ることに努めて欲しい。
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の災害時避難訓練への参加やゴミ拾い活動等地域活動に参加している。また地域の人々と気軽に交流できるよう「喫茶ルーム」を開いている。近くの大宝小学校・物部小学校の生徒との交流も出来、遊戯を披露してもらったり、運動会に招待されたりしている。納涼祭は地域の人との共同行事の位置づけにまでなった。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価を行い先ず日常の行動を見直している。その集大成を管理者がまとめ職員会議に掛け改善策を決定し、2ヶ月に1度の合同会議で確認している。外部評価も同様に検討している。評価を活かした具体的な改善策として応急手当の「AED」を設置し使用方法を定期的に研修していることも一例である。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1度、13名の委員で構成し、概況報告、行事予定、当面の課題について意見具申、取り組み方針を決定している。議事録も毎回キッチリ作成している。近くの農協からの支援や交流が生まれたこともこの会議の成果である。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在、市の長寿福祉課の係長は運営推進会議のメンバーであり市主催の認知症研修会を当事業所で実施したり、他市のグループホームの見学会をお願いしたり、よき相談相手であり、所内のサービス向上・改善に結び付けている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月刊新聞「大宝の郷」を配布し写真等で日常の生活状況を報告している。同時に金銭管理の状況も原簿のコピーを渡している。ほとんどの家族は月1回は来訪があり気楽に生活状況や気になることの相談をしている。来訪の少ない家族は毎月手紙で近況報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が参加するクリスマス会や年1度の家族会で意見や不満を聞き、アンケートも実施している。内容は職員会議や合同会議にて検討しサービスに反映している。玄関に掲示している重要事項説明書には内外の苦情相談窓口を明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員1人は3人の利用者を専任で受け持っているが、全てチームとして基本運営をしており大きなダメージは少ない。ユニットごとにチームメンバーの写真と名前を玄関や食堂に張り出し利用者や家族に印象付けている。離職者を極力無くすために管理者は日頃より相談や意見、提案を聞き事前解決に努力をしている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の年間育成計画を立て、「公平に順番に」を基本にしている。育成計画立案時には個人の希望と事業所のニーズも取り入れ公的資格取得に挑戦させている。研修にあたり受講費用や勤務時間に対して優遇処置をとり職員のレベルアップを図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	淡海グループホーム協議会に加入し管理者会議や、職員参加の研修会・交流会に参加し情報交換や共通課題解決の場にもなっている。協議会の運営にも参加、管理者は現在同協議会の会計の役も担当している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には必ず家族とともに事前に見学に来てもらい事業所の雰囲気を掴んでもらっている。職員や入居者の紹介をし入居者の生活ぶりを見てもらい自然に入りこめるようにしている。利用者の過去の生活環境や本人や家族の思いを聞き不安を取り除くよう心がけている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の多くは色々な経験を積み趣味を持っており野菜作りから料理味付けまで職員は教えられることが多い。買い物、調理、食事も職員と行動を共にし家族的雰囲気の中で支えあう関係が出来ている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中で思いや考えを汲み取れるように努めている。個別外出を実施したり、個人の趣味を活かした生活をベースとした、本人本位の生活を重視した運営がなされており自由な雰囲気が出ている。本人の意向が掴めない場合は家族の希望に沿うようにしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者の入居前の生活環境、生活歴等を確認し、家族や本人の意向を参考にケアーカンファレンスを行い介護計画を作成している。状況により掛かりつけの医院の助言も求めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に一度見直している。介護計画の遂行状況や経過を見ながら職員が作成している。利用者の急激な状況変化や本人、家族の特別な要望があれば都度話し合いの上介護計画を見直している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして日常の受診は月2回の往診により利用者に安心感を与えている。勿論、看護師の24時間連絡体制を確保し緊急時にはいつでも対応できるようにしている。特別な専門医への通院が必要な時は事業所が支援している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の同意を得て、入居前のかかりつけ医から診療情報提供を受け事業所と同グループの医院に変更している。疾病によっては家族の協力を得て他の医院の受診をしている。又都合により職員の付き添いで他の医療機関の受診をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に本人・家族の意向を尊重した終末ケアーの支援を約1年前からスタートし、全職員にこの方針を徹底し共有を図ってきた。実践に向け専門医の指導の下、知識の修得・実習で対応力をつけている。終末期の指針・基本の考え方の文書化や、入居時に説明して確認印を貰う手続きが現在はまだ出来ていない。	○	体制が着実に整いつつあり次の段階として是非、運営規定や契約書・重要事項説明書等の文書に「基本の考え方・指針」を明文化すると共に、契約時はもちろん常に家族と考え方を共有できるよう押印して確認するよう取り組んで欲しい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	気楽に話し合える信頼関係を作る努力をしているが、プライバシーに配慮した言葉掛けや「大宝の郷」新聞の内容も充分配慮し、この対応に心がけている。個人情報は施錠した場所に管理している。利用者の居室は施錠も可能であり個々のプライバシーは保たれている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望や生活パターンを重視した支援を基本にしており、俳句、貼り絵、野菜作り等も自分のペースで自由に楽しんでいる。畑仕事のあとの入浴も希望により可能である。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望や季節感のある食材を活かし、相談しながら作成している。手作りを基本にし、食材の購入から調理・味付けも職員と一緒に行い、食事も同じテーブルを囲んで会話をし、テレビを見、食事を楽しんでいる。可能な人は後片付けも行い一般家庭そのものである。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日昼も夜も入浴できる体制をとっている。本人の体調や希望に沿うよう努力して野外作業のあとの入浴は喜ばれている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の経歴により豊富な趣味や、知識を持っている方も多く、野菜作り、調理、生け花、俳句作り等得意な分野で活動してもらっている。家族・地域の方の指導で詩吟、お茶会、短歌作りを楽しんでいる。利用者が詠んだ俳句が玄関に掲げられており、本人は大変感激していた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の外周はフェンスで囲われ、利用者は自由に敷地内は散策できる。買い物や散歩は一人ひとりの希望に沿って外出できる様にしている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵は掛けず、センサーで感知し出入りを職員が確認している。利用者が外出しそうな時は声を掛けフォローしている。必要な人には出来るだけ一緒に同行する。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下、事業所での避難訓練を年2回実施している。又地域の防災避難訓練にも参加し地域との連携が深まってきた。所内には火災報知機も設置しており、スプリンクラーの設置の準備も着実に進んでいる。		地域との防災に関する連携が深まってきたが、火災報知機の使い方の全職員へ徹底教育、万が一の災害時に備え避難マニュアルを作成し、全職員に徹底するとともにそれに沿った避難訓練を実施して欲しい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個別に1日の量を確認・記録している。水分も同様である。利用者の体調によりお粥等消化のよいものに代えている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気作りに努めており食卓には季節の花を、リビングの開放感のある窓からは季節の菜園が眺められる。共用空間は清掃、空調、換気等行き届き快適な環境である。畳のスペースもあり囲碁なども楽しむことが出来る。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや備品は本人が使い慣れ・馴染んだものを使用している。家族と相談し本人の心に残る思い出の写真を飾り今までの環境の延長になる様にしている。必要な時は家族もこの部屋で宿泊も出来る。職員は部屋の整理整頓に心がけ清潔さを大切にしている。		